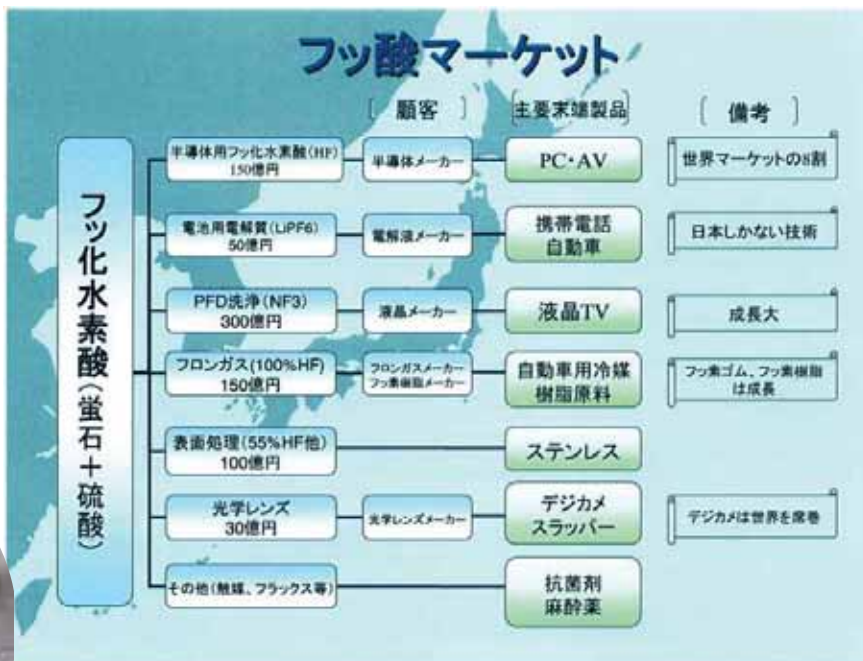


# ハイテク製品の進化を支える 高機能フッ素化合物



## 森田化学工業株式会社

**ガラス、鉄鋼、半導体、リチウムイオン電池等の業界にフッ素化合物を提供**

大正6年に「螢石」と呼ばれる鉱物からフッ化水素酸を製造することと日本で初めて成功し、フッ素化学の草分けとなった森田化学工業。その後、フッ化水素酸からフッ化ソーダやフッ化アルミニウム等のフッ素化合物も製造し、純度の高いフッ化水素酸を製造する技術を積み重ねてきた。「フッ素化合物はいろいろな業界で使われています。一般にはわかりにくいと思いますが、携帯電話の液晶画面の軽量化、太陽電池の加工等最先端産業の発展に貢献しているんです」と森田康夫社長は語る。

同社が製造しているフッ素化合物は、フッ化水素酸、無水フッ素化水素酸、光学用フッ化物、六フッ化リン酸リチウム等である。フッ素はあらゆる元素と化合しやすく、その化合物は長期間変質せず、安定した性質を持つ。そのためガラス、鉄鋼、ステンレスの表面処理、カメラ等光学レンズのコーティング、半導体の洗浄・微細加工、リチウムイオン電池の電解質等あらゆる産業分野に幅広く用いられてきた。リチウムイオン電池によってノートパソコン、携帯電話の使用時間は大幅に延び、機器の軽量化にもつながっている。今後さらなる需要の拡大が見込まれる分野である。

「仕事は受け身になることが多いですが、安定供給、品質管理に力を入れていきます」顧客の動きに着実に応えられる体制を維持することが重要だという。

同社はかつては国内に製造設備を持っていたが、現在は中国の合弁会社でフッ化水素酸を製造し、年間2万tを輸入している。原料調達と確実な物流体制の管理システムを一貫し、効率よく運営することに力を入れている。

### 環境に配慮したリサイクルシステム

原料であるフッ化カルシウム(螢石)の枯渇が懸念されることもあり、社内外のフッ素含有廃水からフッ化カルシウムを回収するリサイクルシステムも進めている。開発部では、このリサイクルシステムをより効率よく行うための研究が日々行われている。

「まだまだリサイクルには費用がかかるという状態。でも当社のフッ素循環型システムは、フッ素含有廃

水から98%という高純度のフッ化カルシウムを回収できます。そのフッ化カルシウムをフッ化水素酸にして初めてリサイクルが完成します。いずれはリサイクル事業を整備し、環境保全と資源の有効活用に貢献したい」という森田社長。このリサイクルシステムをいずれば基幹産業にと考えている。

創業から間もなく100年。先駆のノウハウを活かしながら、環境負荷を軽減するものづくりに挑戦し続けている。

森田化学工業株式会社

Company Profile

住所 / 〒541-0056  
大阪府大阪市中央区久太郎町4-1-3  
大阪センタービル6F

創業 大正6年4月  
設立 昭和10年11月  
資本金 / 2億7,200万円  
従業員 / 50名 (平成21年1月現在)  
TEL / 06-6252-2501  
FAX / 06-6252-2502

関西 19

ISO 14001

<http://www.morita-kagaku.co.jp/>



森田康夫さん  
代表取締役社長

### 主な事業内容

フッ化水素酸・フッ素化合物・一般化学薬品の製造・医薬品の製造・販売・物品分析等